

こども通信

塚田こども医院

小児科・アレルギー科
漢方内科
.....
上越市栄町 2-2-25
TEL 025-544-7777(代)
025-544-7779(保育室)
FAX 025-544-8456
.....

各種ネット予約
www.0255447777.com/i
ホームページ
www.kodomo-iin.com

秋になりました(暦の上では)。秋口はもとも快適なシーズンですよ。

コロナさえなければ、のんびりできるとおもう日々です。

* * *

2学期が始まりましたが、不安に思っている親御さんも多いことでしょう。新型コロナウイルス感染症がこれから一体どうなっていくのか、予断を許しません。

第5波はかつてない大きさ。患者数は最高になり、都市部の医療はすでに崩壊しています。発症していても、多くの方は入院できないどころか、医療機関に受診すらできません。「自宅療養」と名付けられています。その実態は「自宅放置」。窓口となる保健所とも連絡が取れず、呼吸困難になって救急要請しても、



入院することはできず、一部には救急車すら来ないといった事態になっています。

今や都市部だけではなく、地方にもその波が押し寄せてきました。新潟県だけ例外、上越地方には関係ない、などということはありません。

デルタ変異株に置き換わりましたが、これまでの「常識」が通じなくなっています。新しいウイルスと考え、対策を練り直すなくてはいけません。

そんな切迫した状況なのに、適切な対策が取れない日本政府は、残念としか言いようがありません。国民の命と健康を守る立場をしっかりと持ち、ちゃんと専門家の意見を聞いてほしいものです。

感染症情報

RSウイルス感染症の大きな流行はようやく下火に向かっていきます。例年少しずつ流行がある感染症ですが、昨年は全く発生がありませんでした。その反動で今年は大流行。かつて経験したことのない規模でした。

それに代わるかのように**ヘルパンギーナ**の流行が始まりました。こちらも昨年は皆無でしたので、今後大きな流行にならないか心配しています。熱とともに、喉に口内炎ができて飲食しづらくなる感染症です。解熱鎮痛剤を使いながら、治癒するまで数日待ちます。

溶連菌感染症と**アデノウイルス性咽頭炎**が少数発生しています。溶連菌感染症は抗菌薬の治療が必要です。

感染性胃腸炎も少し発生があります。子どもは脱水や低血糖を起こしやすく、ぐったりしている場合はすぐに受診してください。

新型コロナウイルス感染症が首都圏でまたもや大流行になっています。すでにデルタ株に置き換わっているとのことですが、これまでのウイルスとは全く違うような性格です。伝染力が強く、感染から発症までの期間も短く、これまでのワクチンの効果も減弱しています。

予防法の基本は同じです。密集を避け、他の人との距離を十分にとるようにしてください。より短い距離でも感染することがあり、着用するマスクは必ず不織布(使い捨て)を使ってください。部屋の換気も大切です。

インフル予防接種のご案内

- 9月7日(火)朝からネットでご予約を受け付けます。
- 接種は10月13日から始め、平日昼間(月・火・金)と土曜午後の専門外来で行います(土曜は10月16日より)。
- 料金は1回3,600円(税込み)。12歳以下は2回、13歳以上は1回の接種です。
- 今年もよろしくお祈りします。



<http://www.0255447777.com/i>

今月の予定

院長・副院長出務

上越市夜間診療所勤務 15日

上越有線放送 「健康ライフ」 17日

FM上越 「Dr. ジローのこども健康相談」

毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)

感染症情報(毎週)

FM上越: 木曜午後1:35頃～

上越有線放送: 月曜午後6時～(番組内)

医院ホームページ内

コロナウイルス

デルタ株は脅威!

新型コロナウイルス感染症は、昨年春と事態は一変しています。患者発生数は過去最高（新規感染者は1日に2万人以上）。入院できない患者も数万人にのぼります。ワクチンができ、接種も少しずつ進んでいるはずなのに、何ということでしょう。

●デルタ株の登場

原因の一つはウイルスの変異です。コロナウイルスは絶えず変異を繰り返していますが、時に大きな変異が起き、より「強毒」になることがあります。イギリス由来のアルファ株。その後インド由来のデルタ株。今はこのデルタ株が世界を凌駕しています。

デルタ株ウイルスは、人の細胞によりくつきやすくくなり、細胞内に容易に侵入し、大量に増殖する性格を獲得しました。

そのため、デルタ株の性質は全くと言っていいほど変わりました。潜伏期は5日から3日ほどに短縮。ウ

イルス量は従来の一千倍あるとも。それだけ感染力が大きいということです。

症状の中で発熱率が高いために、気づかれやすいようです。この点では、抗原迅速検査の精度が増し、有症状者は必ずしもPCR検査を受けなくても診断できるようになりました。一方で、より重症になりやすい、ということではありません。でも注意しておくべきは、患者層の若年化です。

●若い人が主戦場に

日本では高齢者が概ねワクチン接種が終わり、感染を受けることも、重症になることも少なくなりました。やはりワクチンは効果があるのです。

しかし、ワクチン接種があまり進んでいない若い世代の感染数が多くなりました。そして、その中から重症になる人も少なくありません。

若い人は、かかっても大丈夫だなどとうそぶくのはやめましょう。ワクチンの効果が弱くなり、2回

の接種を受けた人でもコロナにかかるとなりました。ワクチンは万能ではなく、接種が完了していても、マスクを使うなど、これまでと同様の予防策が必要です。

一方で、重症化率には変化はないようです。かかりやすくなっているが、重症化も確実に阻止してくれています。現在入院治療を受けている方の多くは、ワクチン未接種者だということなのです。

ワクチン完了者はかかっても重症になりにくいということは、一筋の明かりでしょう。

●子どもを守りたい!

さらに、以前は子どもはかかりにくいと言われていましたが、デルタ株には通用しません。年齢に関係なく、子どもも普通に感染を受けるようになりました。

子どもたちが心配です。12歳未満はワクチン接種の対象ではなく、大人よりかかりやすいと言えます。

子どもの感染で多いのは家庭内。大人がかかり、それが家庭に持ち込まれて感染を受ける例です。大人が

しっかり予防することが、子どもを守ることになります。

2学期が始まり、子どもたちが集団生活をしていると、子どもたち同士での感染も起きやすくなります。学校でのクラスター発生が各地で多発するといった事態も想定しておかなくてはいけないかもしれません。昨年のような一斉休校は不要ですが、必要に応じた臨機応変の対応が求められます。

●新しい戦いは始まったばかり

デルタ株では「空気感染」もあるようです。従来の飛沫感染予防（マスクは不織布を!）の他に、十分な換気を行うことも大切になります。

予防接種は早めに完了させてください。順調に進んでいたはずの当地も、国がワクチン供給を絞ったため、急ブレーキがかかりました。今後ワクチン供給が再開され次第、当院でもまた受けていただけるように体制を再構築します。

先がなかなか見えない戦いですが、慢心することなく、注意しながら日々を過ごしていきましょう。